

令和4年6月27日

若手研究部会 活動報告書

研究部会名称	熱水分同時移動理論 部会	
主査	氏名	高取伸光
	所属	京都大学
	連絡先	
成果		
<p>背景</p> <p>材料や壁体内の熱水分移動予測は、結露の防止、吸放湿材の効果検証、湿害（凍害・塩類風化）などの予測に有用であるため、これまでも様々な理論が提案されている。しかしながら近年、原著まで参考にすることが少なく、原点への理解が不十分と考えられ、どのように継承すべきかが課題と考えられる。また、不適切な湿度環境は、カビや壁体内結露による躯体性能の低下、肌の乾燥など様々な問題を引き起こすように、研究の裾野が広く、これらの理論がどのような分野に応用され派生しているのか若手研究者が十分に把握することは難しい。</p> <p>活動内容</p> <p>本研究部会では、若手研究者間の湿害に関する知見を広げることを主な目的とし以下のような活動を行った。</p> <p>1) 湿害に関する研究事例に関する事例紹介および意見交流会</p> <p>建物内の熱や湿気に関する若手の研究者同士での意見交流会を定期的で開催し、各分野における現在の課題について意見交換を行った。交流会はこれまで4度開催し、大学の博士課程の学生3名、大学教員（助教クラス）4名、企業の若手研究者6名の計13名が参加した。オンラインでの懇親会も行い、当該分野の活性化につながったものと考えられる。</p> <p>2) 材料や壁体内の熱水分移動に関する勉強会を約2週間に1度程度の頻度で開催した。4名（教員2名+博士課程学生2名）の参加者が集まり、熱水分移動の理論的基礎に該当する論文をじっくり学習することで知見を深めた。また、本活動の最中「理論だけでなく、数値解析技術に関する交流会を今後行いたい。」という意見が出るなど、今後の研究交流活動を広げるための良い機会になったものと考えられる。</p>		